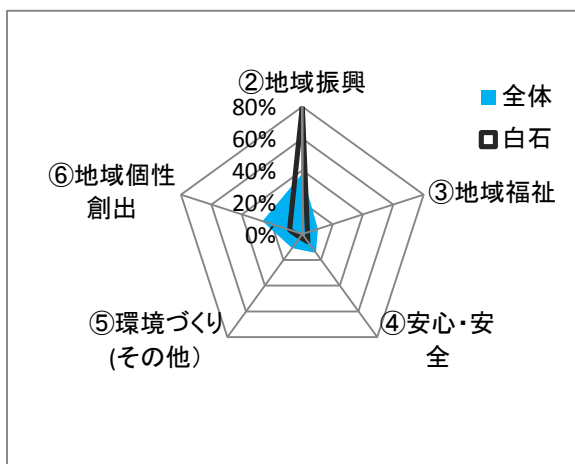


白石地区地域づくり協議会 地域づくり交付金事業概要(平成27年度)

■地域の情報

地域人口	10,368人	自治会数	39
世帯数	4,543世帯	自治会加入率	91.35%

※数値は、平成28年4月1日のもの



■決算状況

交付金配分枠	9,561,000 円
交付金決算額	9,510,988 円
その他収入	300,623 円
交付金決算額／配分額	99.5%

各分野の決算

①協議会運営	4,265,114 円
②地域振興	3,766,729 円
③地域福祉	160,228 円
④安心・安全	276,351 円
⑤環境づくり(土木工事)	833,760 円
⑤環境づくり(その他)	113,990 円
⑥地域個性創出	395,439 円
決算総額	9,811,611 円

■地域づくりの活動方針(テーマ)

みんなで作る住みよいまち・白石

■総括

交付金の活用によって、地域課題の解決に向けた住民意識の高揚が図れ、地域づくりの協働態勢が整いつつある。

今後は、27年度策定した第2次地域づくり計画に基づいて、地域課題を解決するための手段としての事業を企画し(P)、地域住民が主体となって活動し(D)、事業結果(効果)を検証(S)、改善する(A)仕組みを構築するために、地区住民同士が自由に話し合える場づくりに重点的に取り組む。

① 協議会運営	事務員、事務局長人件費、事務費
② 地域振興	組織づくり事業、広報事業、第2次地域づくり計画策定事業、SL応援イベント事業、町内親睦大運動会支援事業、白石フェスティバル支援事業、町内会親睦活動支援事業、西京老人大学開催事業、ふるさとまつり参加促進事業、ノルデックウォーキング講習会開催事業、白石チャレンジ健康づくり事業
③ 地域福祉	減塩推進事業、ゴミ出しサポート運営事業、健康講座開催事業、グラウンドゴルフ大会開催事業
④ 安心・安全	危険防止看板設置事業、反射鏡設置事業、安全パトロール事業、自主防災組織モデル事業、夏休み防災訓練キャンプ事業
⑤ 環境づくり	法定外公共物等整備事業、環境美化&エコ推進事業、白石地区一斉清掃事業、社会奉仕の日清掃事業
⑥ 地域個性創出	お宝写真展開催事業、明治維新150年記念事業

■重点的に取り組んだ事業

	事業名	第2次地域づくり計画策定事業	決算額	1,056,497円
①	目的	1次事計画の事業を検証し、アンケートや住民座談会を通じて、地域課題を明らかにし、課題解決のための方策を計画化する。(平成28年度～平成32年度の5ヵ年計画の策定)		
	実施内容	住民アンケート実施(5月・回収率41.7%)、住民座談会を2回開催(4月・83人参加・7月・44人参加)、計画書作成・冊子作成準備、策定した計画の住民説明会開催(3月・39人参加)、計画策定講座・グループリーダー研修会参加、全体会議等活動回数78回		
	実施時期	平成27年4月～平成28月3月		
	参加人数	参加者数延べ人数約1350人		
	成果	各部会や住民座談会等を通して多くの地区住民に計画づくりに参画いただいたことで、7つの重要地域課題を共有することができ、計画に課題解決の方策を盛り込むことができた。		
	評価	計画策定のプロセスを重視し、専門部会を活発に開催したため、負担に感じる方もおられたが、計画策定を通して地域づくり計画の必要性や事業目的、地域づくり協議会の制度や役割などを再認識するよい機会となった。		
	今後に向けて	2次計画には具体的な数値目標が盛り込まれ、客観的に事業成果を把握することができるようになったため事業評価を適切に行い、PDSAサイクルを推進していく。また、計画の冊子を作成し、冊子の活用により計画が円滑に執行されるよう周知を図っていく。		
	事業名	ふるさとまつり参加促進事業	決算額	166,799円
②	目的	子どもからお年寄りまで家族ぐるみで地域の祭に参加していただき、地域住民同士の繋がりを深める。		
	実施内容	祇園祭において、御神輿の担ぎ手の募集を行い、参加者を対象にサラシの巻き方教室の開催。山口七夕ちょうちんまつりにおいて、今年度初の試みとして一の坂川(西京橋～千歳橋)両岸にミニちょうちんツリーを設置、ほたる広場には、「しらいしカフェ」を開設、運営した。		
	実施時期	平成27年7月・8月		
	参加人数	249人		
	成果	祇園祭においては御神輿の担ぎ手の参加促進としてのサラシの巻き方教室や直会を行ったことで参加者同士の連帯感や絆を深めることができた。山口七夕ちょうちんまつりにおいては今年度初めての試みとして、子ども会育成会等の協力による、一の坂川西京橋から千歳橋までの両岸において、ミニちょうちんツリー設置や、ほたる広場における白石地区町内会連合会との連携による白石カフェ開設は、白石の自慢できるものNO.1(住民アンケート調査結果)の一つである「ちょうちんまつり」において地域住民のコミュニケーションの場を設けることができた。		
	評価	多数の地区住民の参加者により、住民同士の連帯感や絆を深めることができたとともに、伝統ある地域の祭りを盛り上げていくことに貢献できた。また、参加した子供達にも良い経験となり、子供達が伝統的な祭を誇りに思う心を育てることに繋がった。		
	今後に向けて	祇園祭については、町内会総会等に出向き御神輿の担ぎ手のみならず裸防の練り歩き随行者としての参加を呼びかけるなど、参加者が増加するよう更なる努力をしていく。山口ちょうちんまつりのミニちょうちんツリーの設置については、参加者の負担軽減を図るべく、今回の経験を踏まえ、人的態勢を整える。また、来年度は5月に開催される山口ほたるまつりの運営にも参画し、赤れんが広場においてお茶席や休憩所を設営するなど、地域住民が集い語れる場を増やすことに注力していく。		

	事業名	白石チャレンジ健康づくり事業	決算額	49,593円
	目的	日常的に運動に親しむ地区住民を増加させ、心身とも健康な地域づくりを推進する。		
	実施内容	参加者に対して活動量計を6ヶ月貸与。運動や食に関するプログラムを月一回のペースで提供、同時に活動量計をチェックし、個人にあった健康的な身体活動量を自覚してもらう。(市健康増進課とのタイアップ事業)		
	実施時期	9月～3月		
③	参加人数	募集参加者50人に対して49人の応募があり、8回のプログラムに対して79.6%と高い参加率であった。		
	成果	活動量計を利用したの半年間のプログラムを通じて、個々に自身の体質改善に成果あったと同時に同じ目的を持つ仲間づくりに寄与した。		
	評価	運動量がわかりやすく数値で確認できる活動量計をツールに事業展開した。また、多種にわたる健康的なプログラムの実施、保健師による健康相談を事業に盛り込んだことや参加者同士による目標に向けての情報共有等の要因で、高い参加率となった。継続的に事業展開していくことで健康意識が高い地区住民が増加することが期待できる。		
	今後に向けて	安定して事業を展開していくため、主体的に事業運営に携わるスタッフを組織化する必要がある。		